4. 左室駆出率算出における RI First- Pass 法とシネアンジオ法の対比

○土井　修　兵頭多津男
松永　和夫　藤野　俊夫
光藤　和明　三宅　康夫
（倉敷中央・内）
重康　牧夫
（同・放）
河原　泰人
（同・RI）

当院にて左室造影 (LVG) を施行した，心筋梗塞13例，狭心症10例，その他の心疾患5例，正常22例，計50例に，R-I Angiography (RACG) を行ない First-Pass 法により駆出率 (EF) を算出し，LUG 法の EF と比較検討した．

RACG は，患者を仰臥位としシンチカメラを RAO 30° に設定し肘静脈より 10～15 mCi の ^{99m}Tc-HSA を bolous に注入して行ない，データをシンチパック-200に採取，分析した．収縮末期の大動脈弁口面の切り方に検討を加え，種々の ROI を設定し LUG による EF との相関を求めた．

その結果，収縮末期に大動脈弁口が下方に移動することを忠実に表わしたと思われる ROI が，OVG 法と最も良く相関し，その相関係数 r=0.90，回帰式は Y=0.92X+2.38 であった．また，この方法による ROI の設定および EF の算出には検者間であまり差がなかった．

5. 各種肝胆道シンチグラフィ剤の基礎的検討

河村　正　棚田　修二
伊東　久雄　石川　演美
小松　晃　飯尾　篤
浜本　研
（愛媛大・放）

肝胆道シンチグラフィ剤として最近開発された PI, HIDA とその誘導体 (E-IDA, pB-IDA) の代謝を，家兎を用いて血液，胆汁，尿の測定により比較検討し，さらに患者に投与して，経時的にシンチグラフィを行なった成績により以下の結論を得た．

1) 各種 ^{99m}Tc 標識化合物は肝胆道シンチグラフィ剤としてすぐれている．2) 尿中排泄量は PI が最も多く，pB-IDA が最も少なく HIDA, E-IDA はその中間であった．3) 肝への集積は PI が最も速やかで，HIDA, E-IDA がそれに続き，pB-IDA は遅れる傾向がみられた．4) PI は代謝が速やかで，速やかに肝胆道系のイメージングを行なうことができ，胆のう機能の評価にすぐれ pB-IDA は肝機能の定量評価の可能性があることがうかがわれた．5) 高ビリルビン血症患者におけるこれらの薬剤の意義を今後検討していく予定である．

6. 肝胆道系疾患に対する RI 検査と超音波検査の併用

上者　郁夫　木本　真
佐藤　功　玉井　豊理
杉田　勝彦　田辺　正忠
山本　道夫
（岡山大・放）

肝胆道系疾患を疑われ，当科に紹介された患者に対し，通常の排泄性胆道系造影検査のほかに，近年 RI 検査と超音波検査の併用を必要に応じて行なっている．今回 ^{99m}Tc-HIDA などを用いて肝胆道シンチグラフィーを行なった57例（そのうち50例に超音波検査を併用）について報告する．両検査とも患者への侵襲は少なく，容易に検査することができる。特に超音波検査は無害なので，何回でもくり返して検査できるという利点がある．また，ヨードアレルギーのため，通常の排泄性胆道系造影検査の不可能な患者に対しても安全に行なえるので，再検査を併用することにより，肝胆道系疾患の診断の向上に大きく貢献するものと思われる．

Presented by Medical*Online